

「夢破れた人來たれ」研修医確保へPR

合同説明会に88病院

学生「本音知りたい」

医学生を対象に、研修先となる中国5県の88病院による合同説明会が今月、岡山市で開かれた。研修医を確保したい病院は、英語での診療をアピールしたり、地域医療の先進地とうたったり。だが、当の学生は「本音を知りたい」「いろんなことを見せて」と現実志向だ。(錦光山雅子)

英語で診療できる研修があるのは国立病院機構岩国医療センター(山口県岩国市)。米軍の岩国基地内の診療所に入れるという。地域の重症患者を引き受ける唯一の救急救命センターもある。竹内仁司院長は「よそがまねできない

魅力をアピールしている」。お年寄りの在宅医療に力を入れている公立みづき総合病院(広島県尾道市)は、地域医療の先進地だと売り込む。沖田光昭副院長は「何でもみられる医師になるには最適な場所」と話す。

医師の臨床研修制度 医学部を卒業したばかりの若い医師は2年間、研修病院での「初期研修」が義務づけられている。内科や救急、地域医療など、診療の基本を幅広く学ぶ。この制度が2004年度から始まると、それまで出身の大学病院で研修していた習わしが一変。厚生労働省によると、旧制度だった03年度は72%が大学病院を選んだが、新制度5年目の08年度は46%に。若い医師が減った大学病院は、関連病院に派遣していた医師たちを引き上げるようになり、地域で医師が不足するきっかけになった。



合同説明会の会場は、病院がしつらえたパンフレットやポスターで色とりどり＝岡山市

「夢破れた人來たれ」
うたい文句が目を引く山陰
労災病院(鳥取県米子市)。
これまで年2〜4人の研修
医を受け入れてきたが、20

06、08年度は新たな研修医
がゼロだった。都会の有名病
院を研修先に選んだが、研修
医が多すぎて見学ばかりで、
自分で患者を診られないと悩
む研修医にも、研修先の変更
を呼びかけているという。
新しい臨床研修医制度が始

まって6年。海外留学や外部
病院での長期研修など、旧制
度では大学病院の医局が手が
けてきたキャリアアップの機
会を、地方の病院が与えるの
はなかなか難しい。初期研修
が終わっても4人が病院に残
っているだけに、担当の神戸

貴雅医師は「これから考えて
いく必要がある」と話す。
学生たちは何を求めている
のか。岡山大学医学部5年の男
子学生(24)は先輩の研修医か
ら本音を聞きたいと話す。
「1人前の医師がつくった手
術実績で、病院のよさをアピ
ールされても困る。研修医と
して、雑用だけさせられるの
か、患者さんをちゃんと診さ
せてもらえるのか知りたい」
同じく6年の女子学生(24)
は、開業医の父から「救急と
麻酔を勉強しておかないと医
者とは名乗れない」と教えら
れている。初期治療ができな
いとだめという意味だ。「専
門だけで生き残れるのはほん
の一握り。忙しくていいいか
ら、いろんな仕事をさせてく
れる病院を見つけない」